知事広聴「平太さんと語ろう」　記録

【日時】平成 27 年 10 月 14 日（水）

午後 1 時 30 分～3 時 30 分

【会場】清水テルサ　テルサホール

1　出席者

・　発言者　清水区において様々な分野で活躍されている方

４名（男性２名、女性２名）

・　傍聴者　220 人

2　発言意見

	項　　目	頁
発言者１	静岡県の子育て支援について	2
2	中小企業の取組	3
3	事業引継ぎによる商店街の存続	8
4	健康を大事にする食文化	10
質問者１	市立大学について	26
2	地域の発展について	27
3	コンビナート問題について	30
4	特別区について	31

【川勝知事】

皆様、こんにちは。今日はこの「平太さんと語ろう」会、これは広く県民の皆様のお声を聴くということで広聴会、広報に対して広聴ということで、もう既に 38 回開いてきました。そして今回は 39 回目ということです。そして清水におきましては平成何年でしたかね、23 年に一度開いたという記録がございます。そのときにいらした方はいらっしゃいますか。どうもどうも、ほとんどいらっしゃらないということですが、そのときは 70 名ぐらいだったじゃないかと思います。

今日は平日のお仕事がある人は来れないはずなんですけど、たくさんの人に来ていただきまして、誠にありがとうございます。それからまた今日は前列には、こちらの方の御選出の県会議員の方、もいらっしゃるということでございます。

今日は恐らくこんなにたくさんのマスコミが入ったのは初めてじゃないかと思いますが、実は広聴して、いわゆる対話をして、それで終わるというものではありませんで、皆さん方の今日は代表の方々４人に入っていただきまして、そのお話を聞く、問題提起をしていただく、あるいはこれはどうなっているのかということをお聞きいただくと。そして解決できるものはこの場で解決方法について申し上げるということをしてまいったものです。

そして、今日はそういう意思決定のできる者が同席しております。

ですから問題があればここでできる限り解決すると。すぐに答えができないものは持ち帰りまして、質問した人、あるいは課題を提供してくださった方に、必ずそのことについてお答え申し上げるというそういうスタイルでやってきたその一環であります。２時間近くございますけれども、何とぞよろしくお願い申し上げます。

【発言者１】

ＮＰＯ法人中部支部代表の発言者１です。

私の周りには生き生きと子育て支援をされている方たちがたくさんいます。ときどき「若さを保つ秘訣は何ですか」って尋ねられることがあるんですが、それはもちろん元気いっぱいなかわいい子供たちと、そして保護者の皆様と御一緒させていただいていることだと思っています。

今年４月、子ども・子育て支援新制度が本格スタートいたしました。これにより、これから社会が大きく変わると思っています。私が子育て真っ最中だった平成元年には、今のように地域子育て支援センターはありませんでした。核家族の中で入園までの間、家庭で子育てをしようと思うと、何だか社会から取り残されたような、そんな焦燥感にさいなま

れました。そこで、子育て中の仲間と集いたいという思いで子育てサークルをつくりました。

子育てサークルは、我が子にとって友達ができただけでなく、私自身にも今でいう「ママ友」と言われるような仲間がたくさんできました。保育士をしていた経験を生かして、週１回の活動の中で自分のスキルを発揮することもできましたし、仲間となったお母様たちから、さまざまなジャンルのスキルをその場で発揮してもらうことができました。子育てサークルを立ち上げたことで、私の子育て環境が変化しました。

こうした活動を応援しようと、静岡県が平成９年、静岡県子育てサークル育成アドバイザーの登録を始めました。

これからできていく子育てサークルを応援しながら、そのリーダーの皆様と何度もお会いするうちに、こうした活動を有償ボランティアで継続的に子育て家庭を応援する、そんな組織が必要なんじゃないかということになり、発足いたしました。平成 15 年、ＮＰＯ法人化し、現在 10 年ちょっとの歩みを続けてきました。

この間、子育て支援の環境は大きく変わりました。地域に子育て支援センターができ、そこに行けば安心して相談できる先生方がいて、またブログやフェイスブックで自分の子育てを発信する時代になりました。けれども子育てサービスが充実すればするほど、自分の手で子育てする場をつくらなくても、そこに行けば話を聞いてくれる、そこに行けば仲間ができるということで、少し子育て中に持っていらっしゃる保護者の皆様のスキルを発揮する場が失われてきつつあるのではないかということを危惧しています。

元々は子育て家庭に対する応援をすることを主要事業としていましたが、現在は地域子育て支援センター、放課後等デイサービス、放課後児童クラブ、また認定こども園の指導者研修も任せていただくようになってきました。清水では多くの生涯学習交流館で子育て支援に携わっているボランティアの皆さんがいらっしゃいますが、そうした皆様へのボランティア研修もさせていただいております。

今、自分の子供を持って、初めて赤ちゃんを抱っこしたという方が半数以上を占める世の中になって、これからは学生さんのときに赤ちゃんとの出会い、子育てについて学んでもらうということが重要ではないかと思っています。

いろいろな県や市に関わって子育てについて学ばせていただいたとき、私はやっぱり静岡の子育て支援はすごいなって思います。ぜひこの静岡の地で一緒に子育てをしましょうと、これからも声を上げていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

【発言者２】

初めまして、製作所の代表取締役社長をやっております発言者２と申します。

弊社は静岡市清水の山間部で「丸もの」と呼ばれている旋盤加工を主体としている物づくり企業です。主に産業機械、ロボットやエアコンなどの家電試作や宇宙産業の部品加工で活躍しております。近年では医療機器の手術道具や内視鏡、顕微鏡などの部品加工にもチャレンジしているところです。

本日、取組として行っていることを３つお話しさせていただきます。１つ目としましては、部品加工業の取り組みです。弊社も 2001 年の半導体バブル崩壊からリーマンショックまで、かなりの苦戦を強いられた企業の１社です。ただ、リーマンショック以来、今期で６年連続の黒字とすることができました。

なぜ黒字化にできたのかですが、やはり社員、人材によるものが大きいと思います。各企業にはそれぞれの会社の目標や技術があります。弊社で言うと、丸ものの中量サイズでの 100 個のリピート製品をつくる技術がこれでした。すごく狭いエリアではありますが、弊社はそのエリアに特化し、そこではどの会社にも負けないという方針にて、自社の成長への物語を社員と共有しました。

また、納期・品質・コスト、ＱＣＤと呼ばれる当たり前のことを当たり前にできる会社にしようと社員一丸となって取り組んだからだと思います。企業風土を変えるのは非常に多くの時間を要します。だからこそ自社の特徴を絞り込んで、人材育成から改善まで、集中させたことが黒字になった要因の１つではないかと思っております。

今の大きな課題としては、そのコアとなる人材が集まらず、現在試行錯誤しているのが現状です。

２つ目としましては、異業種交流会での取組を行っております。静岡県開発型企業研究会に参加していますが、この会は異業種交流会としては日本初の団体で、非常に歴史のある会です。

会員の特徴は、会員メンバー同士が深い関係を築き、何でも話し合える風土を持つ会です。現在ヒューマンネットワークに基づく事業承継をテーマにして行っておりますが、この風土ならではの経験者だから語れることや、人に言えないような生の声が飛び交うシンポジウムを行っております。

また、私のこの会でのもう１つの目的として、各企業が人材不足で苦戦している中、得意分野を持つ企業が連結し、ヒューマンネットワークによる企業連携ができないかと模索

しております。

そこで３つ目の取組ですが、現在中部発医療機器連携での取組にチャレンジしております。弊社は５年前から、医療機器の参入を果たしました。

現在、東京の耳鼻咽喉科、外科、肛門科、整形外科のメーカーの仕事を受けているのですが、既に東京ではものづくりが減り、製品をつくれないような状況になっています。そのため、静岡でまとめてくれれば製造拠点を静岡に移していいという大変ありがたい言葉をいただいております。しかし、医療機器は多品種少量で、自社の特化した技術だけではとてもできない製品と、本当に氷山の一角のような膨大な物量があります。

そこで医療機器連携を図るために、先ほどの開発系のメンバーを中心にさまざまな特化技術を持つ、志が同じ６社とともに活動しようとしております。現在、今なら他県に流れていかない製品も多いため、市場が獲得できると思っています。この活動が地域活性化につながればと考えております。

以上３つが現在までに行っている取組であります。ぜひとも応援のほど、よろしくお願いしたいと思います。ありがとうございました。

【川勝知事】

どうも発言者１さん、発言者２さん、ありがとうございました。発言者１様は平成のはじめに子育てに入られて、そのときの経験を元に、研究協会をおつくりになられて、また御自身の保育士の資格を活用して、さまざまな制度の中で御協力を賜っているということで、本当にありがたい限りでございます。

皆さん御案内のように、静岡県は少子化、全国と同じように大変厳しいわけですね。そしてお子様の数が１人２人ということになっておりますので、お姉さんがいない、お兄ちゃんがいない、弟がいないということで、そうした中で生まれ育ってお母さんになった方は、初めて赤ちゃんに接するということですから、どのようにして不安なしにお母様方が子育てできるかということで、県全体でやらなくちゃならないということでございます。

そのためにお母さん経験者の方々が一番その頼りになると。実際自分の子供をどなたに預けるかということになれば、自分のお母様、すなわちお子様にとってはおばあちゃんに預けるのが、恐らく一番安心でしょう。そういうお母さん経験者の方々を組織化するというのが、今我々の目指しているところであります。

そして子育てにつきましては、そのお母さん方の経験を語り合える場をたくさんつくろうということで、２年前に静岡におきましては子育てフェアというのをやりましたところ、

１万人ほどの人が募集されまして、需要が大きいということで、今度は東部でやりましたら１万人を超えました。それが去年のことです。そして今年は、西部でやったのですが１万人を優に超えまして、需要が非常に高いと。そして最近では大学生もサークルとか、大学の授業の一環として、小さなお子さんに触れるというそういうことでこの子育てフェアに参加してくださっている方もいるわけです。

私はまずその子育ての環境をよくするには足元からやらんといかんということで、静岡県庁の西館に行かれますと、入ってすぐのところにお子様を預かるところがあります。これは去年の 12 月にできたんですけれども、５年かかっております、これをつくっていただくまでに。

なぜかというと、やっぱり県庁は、今日来ている幹部もそうですけれども、ほとんどが男なんですね。ですから女性の気持ちがなかなか分からんということで、企業には保育所をつくりなさいというふうに言いながら、それを自らが実行しないということでしたので、それで私は知事室、これは東館の５階にありまして、そこを開放すると。そこを子育ての場所にして、そして赤ちゃんを連れていらっしゃいと、それでいよいよ本気だということでできたんですよ。

最近になりますと、さすがに新入の職員というのも 40％ぐらいが女性になりましたので、女性の声が少しずつですけれども、県庁の中にこれから入っていくと思いますけれども、まだ男性中心の考え方があるし、男性中心の仕事の仕方があると思います。ですから、ワークアンドライフバランスということを言って、そこで女性の働きやすい、また家庭で子育てをしやすい環境をつくらなくちゃいけないと。そのためにこういう方がいらっしゃることが、実はものすごく近くになるということです。

私は今や保育園にお子様を連れていったら、それ自体だけで保育士になれるような資格を取れるようにしたいと思っている。だって保育士になるためには、学校に行って、授業に出て、実習がありますでしょう。その実習を自分の子でやるわけですから、その自分の子供の子育てをしながらいろんなことを学ぶとものすごく入りますから、ですから保育士になる資格が取りやすいということで、一昨年からそれを始めまして、少しずつお母様が子育てをしながら資格も取れるというふうにしていたわけです。

しかし発言者１さんの場合は、みずから資格を取っていただいて、そしてそれを生かして、認定こども園、これは保育園と幼稚園が一緒になっているものでありますけれども、そこでも働いていただいていると。こういう試みが全静岡、370 万の県民の間に広がること

がふさわしいということです。また、「あそび」というのが一番最初にきているのがいいですよ。「あそび子育て」、子育てを研究して、子供の発達に応じた形で、そして自分たちの持っている技術をスキルアップしつつ、子育てを応援していこうと。

それから、そうなんですよ、この発言者２さんの、「医療機器開発で新団体」ができたということで、６つの中で中小企業ながらこういうものすごい技術を持っているところがたくさんあります。

しかし、そこは自分の技術に誇りを持っているものですから、なかなか別の中小企業と組むということが難しかったんです。ところが、一緒にやろうよと。そしてこれから確実に伸びるのは、健康に関わる技術だと。それは医療技術だと、医療機械。医療機械に自分だけでは参入できないと。いろんなパーツが必要なので、６団体が一緒になったということですね。

実は静岡県の医療機械というのは、年間 4,000 億円ぐらいの生産額があります。これ日本一なんです。医薬品を入れると１兆円を超えます。医療機器というのは大変に難しいですね。体を相手にするものですから、体を傷つけないようなそういう医療器具を開発しなくちゃいけないということで、極めて高い高度な技術を持っていないとできないと。それが静岡県で今 4,000 億円の生産額を誇っていると。

しかも、医療機器の大半はアメリカから輸入しているんです。なぜアメリカから輸入するかというと、日本の厚生労働省がこの器具を医療用に使うにはいろんな規則をクリアしなくちゃいけない。なかなか許してくださらないので、結局アメリカさんに売ってしまうんですね。アメリカに行って、それが輸入される。しかし基本的に日本の技術はアメリカの技術よりもはるかに高いところがございます。その技術は中小企業がほとんど持っています。

その中小企業がたくさんあるのが静岡県で、しかも今メディカル、あるいはファルマと言われているそういう健康産業ですね。そこが日本の大変重要な分野になっていて、それを我々がファルマバレーということで東部でやっているんですが、そこに発言者２さんが６人の仲間と一緒に入ろうということで、これは極めて注目すべきことですね。

何となく東部でファルマバレー、つまり健康産業をやっているかのごとくですけれども、実際はこれ全県下でやっているものの中で、特に東部はがんセンターがあるから目立ちやすいのでファルマバレーといっているだけなんです。こちらは城下町でした、あるいは商業都市でした、あるいは港町でした。ですから食べ物ということを重視したフーズサイエ

ンスヒルズ、フード、食料に関係しているものになっております。

西部の方は、ニュートリノが振動すると、だから質量を持っているということを発見した機械は、西部の会社がつくった光電子倍増管という、これはものすごい高い技術です。

その技術が何に利用されているかというと、単にヒッグス粒子を発見したとか、ニュートリノが存在するということを発見したとか、それに質量があるということを発見したというだけでなくて、あそこは核融合して太陽をつくろうとしているんですよ。核分裂で今原発やっているでしょう。核分裂すると放射能が飛散します。しかし核融合は放射能出ないんですね。太陽をつくるということはものすごいものですよ。その志を持った光の産業です。

そのセンサー機能は何に使えるかというと検査に使えます。それはもちろんすごい小さな物質であるニュートリノのようなものだけでなくて人体に使えるので、これが医療に使われているんですよ。ですから、人類にとって健康ほど大事なものはありません。健康寿命は日本一でしょう。日本一のものをさらに延伸する。病気になったときには治してもらいやすい。地元で開発された高い技術を使うのがいいと。それをやってくださっているんです。

その中小企業の職人さん的な技術を持っているそれぞれのプライドの高い中小企業をついに６つまとめたと。ですから今十万を超す中小企業が静岡県にあります。99.99%が実は中小企業です。その方たちの技術を何かのところで結集しよう。自分たちだけではできないというときに、発言者２さんのような方が静岡市というこのフーズサンエンスヒルズというそのイメージがあるところでできたというのが、これはうれしいではないですか。

ぜひこれで力を合わせて成功していただいて、さらにまたこの輪を広げていくと。また他の中小企業の連携を促すというその先導役にもなっていただければというふうに思いました。大変感心してお二人のお話を伺いました。ありがとうございました。

【発言者３】

今御紹介いただきました発言者３です。私は清水駅前銀座商店街の中にあるお店の代表をしております。約 70 年続くお店なんですけれども、実は私は今そこの人間になっているんですけれども、３年前まではサラリーマンでした。なので実は３年前までは全く違う仕事をしていました。

食を大切にしたいとか、体のことを考えて、食のことについてお伝えする仕事をしたいということで、実は起業を考えていたんです。ところが当時、今のお店の前店主が自分の

後継者がいないから、だれかやってくれませんかということを、静岡県事業引き継ぎ支援センターというところに御協力をいただきまして、公募で後継者を探すということをしました。それで私がちょっと御縁があって、お店に入ることになりました。

お店自体は本当に小さくて、当時はその店主とパートが１人という状況で仕事をしておりました。私が店に入ってまずやったことが、料理教室です。今お料理つくられる方すごく少ないものですから、まず若い方にお料理をしていただく人を増やしたい、商品のよさを知っていただきたいなということで、料理教室をやったりとか、あと小さな子供さんとお母さんと一緒に親子で季節のお菓子、柏餅をつくったり、中秋の名月であれば月見だんごをつくったりとか、そういうことをしたりとかしていました。

それで私自身、最初は前店主が５年で引き継ぐよというところを２年で、今年の１月に事業承継いたしまして一応代表になりました。すごく一般の方から見たら、全く他人にお店を渡すということは、すごく難しいことのように感じられると思いますし、実際お子さんに渡される方が大半で、ほとんどの方が今商店街のお店なんかは、もう自分の代でいいやというふうにして、あきらめられている方がすごくたくさんいらっしゃいます。

ですが、私が商店街に入ってすごく思ったことは、皆さんそれぞれすごくすばらしい商品、大手さんではなかなか取り扱えないものだったりとか、本当にこだわった商品を扱っているけれども、後を継がれる方がいないので諦めていらっしゃるということがすごく多いことを残念だなと思います。

私はそういう中でやっぱり事業を引き継ぐ点のいい点て何点もあると思うんですけれども、まずはやっぱり前店主が店の規模を減らさない、やめるとなると、どんどん規模を縮小していって、やめられちゃうんですけれども、後を継ぐ人間がいるよというと、余り規模の縮小をしない。で、そのまま後が継げる。

あと商店街から空き店舗が増えない。今もう駅前銀座の商店街も空き店舗がすごく増えてしまっているんですけれども、やっぱり空き店舗対策というと、どうしても皆さん新しい方を入れるということにすごく熱心になられるんですけれども、今あるお店を潰さないということがすごく大事なことじゃないかなと思っております。

あとお客様自身も、今まで買っていたものがなくならない。うちのお店なんかも豆を中心に取り扱っているんですけれども、豆だけでも 30 種類、その他に昆布とかそういうものも扱っているんですけれども、そのものが、もしこのお店がなくなるときに、扱うところがなくなってお客様が困る、そのことがやっぱり前店主はすごく気にしていて、私自身も

自分がそこのお店に行ってみて、ああ、これだけの商品があるのになくなってしまうのはもったいないなと思ったことが、後を継ごうかなと思ったきっかけでした。

そういういい点もあるんですけれども、やっぱり難しい点もありまして、年齢が高い方が後を継がれる方を呼ぶということは、そこに多少はお給料を払わなきゃならないですけど、普通のサラリーマンのようには高額は払えないと。私も実際サラリーマンのときの本当に何分の１という年収になってしまったので、生活自身すごく大変な部分もありました。そういう部分があると、後継ごうかなという方がすごく少なくなるというのがちょっと寂しいことだなと思います。

それとやっぱり引き継ぐときにある程度の資本がないと、後を継ぐことができないという問題があります。なので、私はこの場でやっぱり行政の皆さんいらっしゃいますので、そこの部分で御協力が何かいただけないかな。そうすれば商店を諦めることなく、後を継がれる方というのがふえていくのでないかなと思います。

実際今、全国的に後継者バンクというものがあって、要はやめようと思っている方がだれか継ぐ人いませんかというところと、起業とかを考えている方の中から、後を継がれませんかという方をマッチングするというものが実際に行われているんですけれども、金銭面とかいう部分がすごくポイントになってくるので、行政の皆様にはそういうところを応援していただけたらいいなと思っています。

空き店舗対策とか、後継者不足とかいう部分で、すごく今大事な部分になってきているんですけれども、私自分が経験してみて、そういうところを皆さんにお伝えできたらなと思って、きょうはここに参加させていただきました。

それと、外からの人間で、商店街にいて思うことは、商店街もまだまだ男性社会です。なので、商店街の環境自体が、女性だったりとか、子供さんがいらっしゃる方だとか、高齢者に対して、ちょっとまだまだ足りないなという部分、特にトイレの部分とかは、商店街では予算をかけづらいんですけれども、どこの個店も今結構厳しい状態の中でやっている中で、おトイレが商店街の中で１カ所小さいのしかないと、そうすると車椅子だったり、ベビーカーの方は駅まで行って、ほとんど商店街は使いづらいなというふうに思われてしまう方が多いので、そういう部分も駅前ですぐアーケードがあって、安心してお買い物ができたりする場所ではあるんですけれども、そういうところが足りない部分というのもちょっと御協力いただけたらなと思います。ありがとうございました。

【発言者４】

皆さん、こんにちは。発言者４と申します。よろしくお願いいたします。

清水の駅前でホテルを経営しております。実は元々旅館でございまして、戦前より実はこの地で開業をしまして、20 年前に今のホテルの形に変えました。私は実はその４代目になります。

私たちのホテルが大事にしていることが実はありまして、それは創業者からの教えでございます。創業者は私の曾おばあちゃんになるのですが、曾おばあちゃんは実は清水の出ではなくて、縁もゆかりもない埼玉から実は戦前に出てまいりました。何があったかというと、この清水港から見た富士山が余りにも美しくて、ここは世界から人が呼べると信じ込んで、海の家を始めてしまったというのが、実は我が社の歴史の始まりでございます。

私が曾おばあちゃんに言われていたことはただ１つです。お宿というものは、この地に魅力があって、その後初めて必要とされるものだと。だからこの地に来る意味がなかったら、宿というものはないんだということをずっと言われておりました。観光はその地と共に育つものだということを私たち今もホテルで信念を持ってやっております。

そんな私たちのホテルの取組で１つ御紹介をさせてください。食事の開発でございます。もちろん観光、その地と共に育つという思いがあるので、静岡の食材を使った食事なんですが、実はこれは食事制限がある方でも食べられるごちそうというのを地域ぐるみで開発いたしました。「駿河湾レシピ」と申します。

簡単に言いますと、この表面にある６つの丸が、その条件を満たしたメニューでございまして、糖尿病の方でも食べられるというのがコンセプトでございます。そしてまた食材を 95％静岡県産のものを使ってつくっております。

こんな料理をつくるきっかけというのが実はありまして、それは私、おもてなしを考える機会がありました。私たちホテルですから、仕事はお客様をもてなすことでございます。食事に関して言えば、とにかくおいしいものをつくることが価値だと、本当に信じてまいりました。ただ、それがその価値観が一変する出来事が実は５年前にありました。それが清水の病院と一緒にやった食事会でございまして、病院から糖尿病の方でも食べられるフルコースをつくってほしいと言われました。

私たちお受けをしたんですけれども、条件を聞いてみると、例えば小麦粉は使っちゃいけない、砂糖は使っちゃいけない、どういうものができるかというと、おいしくないものができる。おいしくないものというのは、私たちが考えるおもてなしではないわけです。なので、実は１回やってやめようと正直思っておりました。

ただ、これを実際に食事会でお出ししたときに、私２つ大変な驚きを受けました。実は１つは、この数字を守って出した食事を食べた、糖尿病の患者さんでしたけれども、食べる前よりも血糖値が下がったというのを私目の前で見て、健康になったというのを見たときに私びっくりいたしました。食事で健康になるのかと。

もう１つは、普段食事制限されている方が、制限なく食べられたときの喜びでございます。涙を流して喜んでくれた姿を見たとき、恥ずかしながら、おもてなしを私たち提供していると言いながら、涙を流されたことは一度もなくて、深く考え直しました。今後必要となるおもてなしって何だろう。やはりこういった食事制限のある方でも制限なく食べられる、そういう食事をつくりたい。そこで開発をして今に至るわけです。

この５年で何とかここまでできてきましたけれども、今この食事は患者さんだけではなくて、健康な方、実は東京や大阪、京都からも召し上がりに来てくださいます。ここにしかないというものができれば人は動くんだということを学ばせていただきました。

実はこの料理をつくるのにはキーワードがありまして、それは実はこの５年間で連携をしてまいりました。今日のキーワードでもあります。実はこの病院だけではなくて、生産者さんにもいろんなお話をしました。例えば糖度の低いトマトはつくれないかということですね。そういったこともお伝えさせていただいたりしました。料理長は大学に栄養を勉強しに行きました。ペンを握ったことがないというそんな料理長が勉強しました。連携によって生まれたものが、「ここにしかないもの」だったのです。

今一次産業、二次産業、三次産業を掛け算で六次産業化と言われておりますけれども、それが１つできたきっかけとして、これは非常によかったかなと思います。

私たちこの連携ということをキーワードにしまして、実は観光の業界でもありますので、今日このお話をさせていただくに当たって１つだけお伝えしたいことがあります。今、海外の方が非常にふえてきた、観光産業はいいだろうと言われる方がたくさんいます。そしてそのとおりなんです。

ただ、観光客向けの商品というのが、やはりつくっていかなければいけないことも否定はしないんですけれども、本当に必要なのは、こういった地元の方が喜んで認めてもらって、それがここにしかないとわかったときに人が来てくれるというのが、本当にこの土地が豊かになった印なのではないかなというふうに思います。

そういう意味で、あえて地元の方にこういった食事を知ってもらって、これが健康を大事にする食文化になって、静岡のブランドになっていけばいいなと、そんな思いでおりま

す。よろしくお願いします。ありがとうございました。

【川勝知事】

すばらしいお話で感じ入りました。発言者３さんは女性ならでは視点をお持ちで、料理教室を始めるとか、食べ物に関わる起業をしてみたい、しかし給料は下がる。しかしちゃんと指標を定めて、その指標に到達できるような、そういう何といいますか、明確な目的意識を持ってやっていらっしゃるというのがすばらしいと思います。

今度この商店街を預かられて、商店街の活性化のためにもというふうに今お仕事をされているということなんですが、そのときに男の人も女の人も来るわけですから、もう本当に身近なことでトイレはどうなっているのという、それを男の人だけの世界だと気がつかないということがあって、これは毎日のことなので、これは確実にそうした適当な場所で、商店街のいわば清潔な感じで、かわいらしいきれいなそういう御不浄ができればいいなというふうに思います。

今空き店舗が増えておりまして、空き店舗、例えば金沢ですと、そこに芸術家が入ってきたりしたりしているところもあります。いろんな工夫があるんですが、しかしやっぱり今まであるお店が継続しているというのは、何とありがたいことでしょうか。ですから、そのまちのいわば風景の１つになっている。この風景を壊さない。

私はこの風景というのは、街並みの風景というのは、まちの人々の思想の表現だと思います。ですからこのお店がここにある風景、ひょっとすると、小さなときに誰かがそこで絵を描いていたかもしれない、商店街の絵をですね。そのお店がなくなってしまったということは何と寂しいことでしょうか。だけど、それが引き継がれていると。

そしてそこに魅力的な女性が、いろいろ優しい気持ちを持って、ほかの人たちと一緒に商店街の活性化に活躍しているというのは、懐かしい思い出を本当に蘇らせてくれるすばらしい試みだと思いますので、こういう引き継ぎという形での商店の第三者による引き継ぎというのは、引き継ぎの支援をするということを通して、今どんどん、どんどんとシャッター街になっているところをこれを活用することでやっていきたいと思います。

それからこの発言者４さんの話は、あなたのようなすばらしい青年が、しかも曾おばあちゃんの教えといいますか、知恵を体の中にちゃんと宿しておられるのがすばらしい。こちらに来て、もう駿河湾の富士山を見て感動、彼女の感動はわかりますね。そしてそれが４代目まできて、そしておもてなしについてよくお考えになって、病院とそしてホテル、そして何といったって泊まって食事をしますからね、風景を見る、そして泊まる、晩や朝

に食事をするということでございますので、その食事にこういう病院と組んだと。

料理長が包丁を持っているじゃなくて、今度は鉛筆を持った、ボールペンを持った。そして各素材のカロリー、あるいはそれの効果、あるいはそれのいわば副作用、そうしたものをすべて勉強をして料理をしている。

そして結果的に、御自身の前でお客様も糖尿病の方の血糖値が下がったとか元気になったとか、それはもう全員にとって喜びですね。そして結果的にそれが、何といいますか新しい要請になっていると。通常トマトは糖度を上げる。そういうのと違って、糖度を下げた方がいい、しかしトマトの味はどこかでちゃんとしているというのを要求するというんですからね。これはもう一番のサービス産業の最先端から農業をしている人たちに対するすばらしいメッセージじゃありませんか。

そして、これは今成功しているということで薬食同源、医食同源、そして静岡県が健康寿命日本一だと。味というのは慣れていくものですから、濃い味に慣れている人もだんだん薄味で、それが健康にいいということになれば、糖尿病予防にもなりますからね、これが本当におもてなしというか人に対して優しいのではないか。

静岡県は 439 の食材があります。農産物だけで 339 ありますよ。439 あります。そして冬は今日みたいに真っ青、初冠雪している真っ白な霊峰を仰ぎ見る、それが清水ですからね、そこで１晩泊まる。健康になる。

これはひょっとすると海外でも行けるんじゃないか。こういう若々しいジェントルマンの青年が引き継いでいるというのは、お母様もお父様も立派だと思いますし、そのおじいちゃまもおばあちゃまも、さらに曾おばあちゃんも、この家族の歴史といいますか、これがほろっとしますね。ぜひ励ましたいというふうに思いますので、本当にすばらしいお話を伺いましてありがとうございました。

【川勝知事】

さて、今日は１時間ほど時間を頂戴いたしまして、県都構想について御説明したいと思います。

さて、東京都というのは有名ですよね。東京都というのが昔「東京市」と言われていたことを知っていらっしゃる方はどのぐらいいらっしゃいます？そうですね、もうほとんどの方が御存じだということなんですが、「東京府」と「東京市」というのがありました。そして戦前期におきましては６大都市と言われまして、東京、横浜、名古屋、大阪、京都、神戸というのがあったわけです。ところが日本は戦争に入りました。東京は首都でありま

す。だんだんと日本の戦況が厳しくなって、それで足元の国の指示をすぐに伝えなくちゃいけないということで、東京府と東京市を１つにしまして東京都になったのが昭和 18 年のことです。

そして戦争が終わりまして、いよいよこれから新しい日本をつくっていこうということになって、そうすると残りの５つの都市、横浜市、名古屋市、神戸市、大阪市、京都市は、自分たちも６大都市のうちの５つであるから、府と市、あるいは県と市が一体になっているのは、東京都と同じように１つにしたいということで特別の市、普通の市ではなくて特別の市というふうにしてほしいということで、もっともそのとおりだということで、昭和 22 年に特別市というのができました。特別市というのは定義によりまして、県から、府から自立した市のことです。

ところがですね、横浜も御覧くださいませ。横浜市というのは港がありますし、美しいところですし、人口も多いので、なかなか神奈川県庁はそこから出ていきたくないと。京都府も京都市から出ていきたくはないということで、府、県の知事さんが大反対をなさって、そして 10 年たって、もうしようがないねということで、政令で、じゃこれを一応今のままで二重のままでよろしいということになって、政令指定都市というのができたのが昭和 31 年でございます。ですから５つの政令指定都市というのが昭和 31 年にできました。５大都市ですね。

ところが、人口は当時戦時中では 7,000 万、8,000 万ぐらいです。今１億 2,000 万以上いるでしょう。人口が増えていったわけです。そうすると横浜の隣の川崎市であるとか、あるいは千葉市であるとか、さいたま市であるとか、広島市であるとか、そういう幾つかの市が人口が 100 万を超えるようになりまして、そこが自分も横浜や京都や大阪と対等であるということで、自分たちも 100 万以上あるので政令市にしろということになりまして、順次政令指定都市を増やしていって、合計 13 までになったんですよ。

そして平成に入りまして、平成の合併というのがありました。皆さんも覚えていらっしゃるでしょう。今、静岡県には 35 の市町があります。そうした中でやはりこの静岡にも立派な都市が欲しいということで、静岡市と清水市が合併何とかできないかというそういう動きが前からあってそれをやる。やるけども、どうせやるならば普通の市ではなくてそれより上、市町村の市のさらに上の政令指定都市になりたいと。政令指定都市にしてくれと。

政令指定都市にするには 100 万以上ないといけない。しかし平成の合併で合併しろと国も言っているでしょうと。だから何とか 70 万ぐらいまで下げてくださいということをこち

らの町の方たち、また県知事が要求せられて、その結果 70 万に下がったわけです。

その下がったときの決定的な証言が、こございます。政令指定都市の人口要件についての総務大臣発言というものです。平成 15 年、今からもう 12 年も昔の予算委員会で、ちょっと読みましょう。

「政令指定都市は法律上は 50 万以上で政令で定める市なんですね。政令で定める市だから政令市というふうに言うんですけれども、今御質問があったように、かつては５大市だったんです。その後増えましてさいたまを入れて 13 になるわけですが、今の政令市の政令指定の基準は人口が 100 万以上あるか、近い将来確実に 100 万になるということでございます。全国、今はさいたまは 100 万を超えております」というふうなことをおっしゃって、そういうことでやってきましたけれどもということで、「政令市が県並みになるものです、権限が。政令市というのは県並みの権限を持っているという意味で、そういう権限を持ちたい、強い権限を持ちたいということで、政令市を目指したい。こういうところは全国に何カ所かありまして、そこで一昨年の政府の合併支援本部で政令指定市の指定について弾力的に対応しようということになりまして、その第１号が静岡・清水、これが 70 万です。しかし拠点性があるし、これから静岡、清水が合併しますと、人口も相当に増えてくると思いますので、これについては政令市にしよう」というふうに言われたわけですね。

というのはですね、この前後に静岡市議会におきましてやりとりがありまして、市当局の方からこういうふうなことが言われています。「目標の人口についてですけれども」、これは 2001 年の 11 月４日というんですから、平成 13 年ということですね。「目標人口についてです。都市計画に盛り込まれた市街地再開発事業、区画整理事業、新街区設置等の事業、子育て支援、教育環境の整備、高齢者住宅対策事業を含め、横浜－名古屋間での最大の人口規模を持つ大都市の誕生によりまして、大都市効果が出る。10 年間に４万 4,000 人程度の人口増加が見込まれる。これを加味し、75 万を目標人口といたします。平成 24 年における都市の総人口は 75 万人としたところでございます。」というこの発言が静岡市議会でなされまして、これを受けて片山さんは 75 万になるというふうに言われたわけですね。

さて、そうした中で今どういう状況かということなんですが、施行日の１番目から５番目までが昭和 31 年まで５大都市だった。だんだん 100 万を超える、ないしそれに近い都市ができまして、さいたま市までで全部 100 万以上ということです。ところが 14 番目に政令市になった静岡市は 71 万 6,000 人でした、そのとき。そしてあと堺市、新潟市、浜松市、岡山市、相模原市、熊本市、全部 100 万を切っている。これは静岡市が先鞭をつけて、あ

との６つの市が政令市になったわけです。

ところが現在の人口はどうでしょうか。人口は今静岡市は 70 万 3,937 人ということになっています。その面積は、静岡市は 1,411 ㎢ありまして、例えば横浜市の面積と比べますと、横浜は 437 ㎢ですね。ですから３倍以上あるわけです。一方、予算規模をみますと、これが横浜の場合には１兆 4,955 億、１兆 5,000 億ですね。静岡市は面積は３倍以上あるんですけれども、2,800 億円ぐらいなわけです。ちなみに静岡県の財政規模は１兆 2,397 億円です。横浜というのはうちより大きいわけですね。

ですから、どういうふうに横浜市や、あるいは政令市の人たちはこれまで言ってきたかといいますと、自分たちは、例えば横浜市の場合ですと、静岡県よりも大きいと。予算規模は自分たちだけで１兆 5,000 億ありますと。面積はコンパクトで四百数十平方キロメートルしかないと。したがって神奈川県は出ていってくださいと。神奈川県知事さんなんですけれども、個人的に彼は横浜が好きなんですね。だからなかなか出ていかないわけです。

また京都府の知事さんにもそういうことを申し上げましたけれども、やっぱり京都市を抜いた京都府というのは、何となくミルクのないコーヒーみたいな感じで、ミルクがない方がいい人もいるかもしれませんが、なかなかにできないということで、しかし政令市は今 20 ございますけれども、20 とも自立をしたいという気持ちが強くて、そして浜松市と静岡市さんは、できれば県は特別自治市を目指すので、ほかのところに移ってくださいということで、数年前にいわゆるＧ３というのがあります。

そこで提案されまして、私は県議会で県庁所在地を移すとなればどこがいいか、２つしかない。３つあるけれども、２つしかない、実質上。伊豆半島というわけにいかないので、富士山のふもとか、志太榛原中東遠だというふうな発言もしたのは、何とか自立をしたいという気持ちを協力して支えたいということで、もう権限や財源、日本で一番たくさんそれを譲っているのが静岡県です。ここ数年日本一です。

しかしながらということになりまして、70 万を切りますと、これは平成 23 年 10 月 18 日ですね。これを答えているのは川端総務大臣ですが、「もともと原則として人口 100 万人以上ということでして、今御指摘のように、平成 22 年３月 31 日までにいわゆる平成の合併で合併した団体につきましては、市町村合併支援プランを踏まえた指定の弾力化を行ってきました。平成 22 年３月 31 日、いわゆる平成の大合併は一段落をしました。その意味でこの弾力化、つまり特例に基づいて政令市になったのは熊本市で終わりです。今後は元に戻って 100 万人をベースとするということが運用されると考えています。」ということにな

っています。

ですから、今、特例で 70 万になっている静岡市を何とか立派なまちにするにはどうしたらいいかということを考えるべき時にきていると思います。ちょうど 10 年たちましたのでね。

そこで、例えば東京市と東京都とどちらが格が高いでしょうか。東京市の方が格が高いと思う人はどのぐらいいますか。東京都だと思う人。やっぱり東京都でしょうね。ですから大阪市が大阪都になると、大阪市よりも何となく格が上がった感じになるじゃないでしょうか。ですから大阪都というふうに言うわけですよ。その大阪都構想というものは、今までそんなことは話としては言えても、制度としてそんなものはつくることができなかったんですよ。そこで制度ができたんです。ちなみに特別自治市をつくりたいと。つまり県は出ていってくださいというそのような特別自治市の法律はありません。ですから法律はないんですよ。ですから本当にやる気があるかどうか。

そして国会で法律をつくらないといけないという状況なんですけれども、大切なことは、いわば１軒の家に２人の世帯主がいるようなものです。そして、あるいは１つの船に２人の船頭さんがいるようなものです。自分は東に行きたい、他方は西に行きたいということが言えるようなものが実は政令市なんですね、県と同じ権限を持っていますから。そういうことで、何とかこの二重性を、二元性を解消しようということで、国も働き、そして大阪都ということで、大阪府全体を大阪都にして、今の大阪市を東京の 23 区のような区にする。これを特別区というふうに言ったわけです。

今、大阪には今 24 の区があります。合計 260 万人ぐらいの人が住んでいるわけですね。その 260 万は多過ぎると。ですから住民の直接の意見を市が全体で表現するには余りにも人口が多いので、これをもう少し整理をして、大体 30 万人から 60 万人くらいの区にしたい。そうすると 30 万とか 60 万台というのは政令市よりも人口が低く、政令市の次の市の中で高いレベルのある中核市というそういう位です。その位にして特別区というのをつくりたいと。

そして南区、北区、東区、それから中央区、湾岸区、一番人口の少ないのが湾岸区で 30 万台、その次が中央区で 40 万台、一番多いのが南区で 68 万です。それから北区で 62，3 万。そして東区が 50 万台ということで、そこに区議会を設けて、そして議員先生を選んで、そして区長さんも選挙です。そうすると湾岸に近いところは湾岸らしい仕事ができる。ちょうど墨田区、あるいは葛飾区というのが江戸川の近くにありますね、あるいは隅田川の

近くにあります。一方、世田谷区だとか、あるいは杉並区という住宅街のところがあります。

それぞれ皆個性を持ってやっているわけですが、そうした区にしたいということで５月に住民投票が行われて、何と投票率は３人に２人が投票されるということで、大阪始まって以来、40 年ぶりの 60%以上になりまして、大体 70 万人ずつぐらいです。わずか１万人ほどの差で、それはちょっと考え直して今のままでいいということになったわけですが、これがこういうことが言えるのは、法律があるからなんですよ。

その法律がどういうものかということを示すのが、全部で 14 箇条からなる大都市地域における特別区の設置に関する法律といわれるものです。これは第１条に特別区を設ける。特別区を設けるのにどういう条件があるか。大都市というのは、基本的に政令指定都市と考えていただいて同じです。人口が多いところが大都市です。ただ、第２条に、左側、現行法では 200 万人以上でないといかんと。200 万人以上のものは横浜と大阪市と名古屋しかありません。しかし近隣の市町を入れて 200 万人以上のものも特別区を設けてよろしいということになりまして、それは大体 20 の政令市のうち 10 が当てはまるわけです。

そうすると静岡市は 70 万人しかいませんので、特別区は設けることができないわけですね。そして特別区を設けるためには、道府県庁が所在する指定都市、そうするとどこがありましょうか。北から北海道、札幌市ですね、これは札幌市が政令指定都市です。と同時に北海道庁があります。仙台市、政令指定都市です。宮城県庁があります。千葉市、政令指定都市です。千葉県庁があります。そしてこの静岡市、県庁がございます。そして名古屋、愛知県庁があります。神戸、大阪、京都、それぞれ兵庫県庁、京都府庁、大阪府庁が政令市の中にあるんですね。あと岡山もそうですね。岡山も政令指定都市ですけれども、岡山県庁がそこにあります。そして広島もそうですね。広島県庁がある。それから福岡市、福岡県庁、熊本市、熊本県庁、そしてあと新潟がありますね、新潟市と新潟県庁、それからさいたま市と埼玉県庁、合計 15 のところが特別自治市として出ていくことが１つの方法です。

もう１つは、もう少し住民の方々の自分たちのまちづくりを自分たちで決められやすい方法、つまり特別区なんですけれども、東京の、そうですね、葛飾柴又のあの葛飾区、江戸川堤の江戸川区と、それから杉並区とか、あるいは中小企業のいる大田区と全然個性が違いますけれども、それぞれの個性を出した区づくりをしているわけです。

私はこの選択肢を考えてみてもいいのではないかということです。今日蒲原、由比と、

それから旧清水ですね、これで今清水区になっておりますが、最大の関心は何でしょうか。私はやっぱり港でしょう、あるいは蒲原や由比ですと、そこは宿場町ですから、蒲原、由比ではサクラエビのときの祭りだとか、あるいは宿場祭りだとか、街道祭りを一生懸命なさっておられるでしょう。また清水というのは何といったって港だし、三保の松原もありますし、これを活用したまちづくりをしたいということがあります。

一方、例えば井川、井川の南アルプスのふもとですね、そこの関心は何でしょうね。そこの関心はトンネルを掘ってください、道幅を広げてください、あるいは河川工事をちゃんと洪水が起きないようにしてくださいということだと思います。そしてまた葵区の中心のところは城下町ですから、城下町らしいまちづくりをしたいというところがあると思います。

そして、そういうふうにやっていらっしゃるんですよ。やっています。それぞれの地域の特性に応じてやっているんですが、そして清水区と、それから葵区と駿河区で大体15名前後の市議の先生方がそれぞれの意見を言われるわけですが、その方たちはそれぞれやっぱり清水の人は清水のことを中心に、葵区の人は葵区のことを中心に言われるでしょう。両方とも大事ですよ。どちらをとるかとなると、もうこれはなかなかに両方を立てないといけないということとか、あるいは中途半端になるとか、あるいは何もしないとかということになりかねないということですね。

私は選択肢の１つとして、特別自治市というのは法律もないと。しかしこの今回の特別区というものを設置すれば、自分たちの清水区のことは清水区の区長さん、今の区長さんの名前を知っている人、どれぐらいいらっしゃいますか。ともかく、その区長さんのことを知らないですよね。葵区の区長さん、だれですか、駿河区の区長さん、ましてや清水区の区長さんを知らない人はほかの区長さんも知らない。ですから区長さんに頼めばというふうなことがなかなかできないということであります。

そうした形でいわば県都静岡清水区、県都静岡葵区、静岡はなくならないですよ。県都静岡駿河区、こういうふうにそういうやり方も考えてみてはいいのではないか。

これは東京都と大阪都とどう違うかということなんですけれども、東京都は23区がありますね。プラス三鷹市があります、あるいは立川市があります、国分寺市があります、あるいは八王子市もあります。こういう東京都は全部をカバーして23区以上のところが入っているわけです。いわばかつての東京府がそのまま東京都になって、そして一番人口の多い23区は区議会があり区長さんですね。

この区議会の区長さん、例えば南伊豆町に今度、杉並区の特養ができます。杉並区の区長さんは都議会のかつての議長さんです。大変に力のある方です。その人が区長をされて、そして区民の中で特養が必要とされる方のために、健康にいい、そして食べ物もおいしい、人柄もいい南伊豆に特養をつくると。で、南伊豆の方は人口が少なくなっているし、仕事が増えるからということで、ウィン・ウィンの関係になっているわけですが、そういうこともできる区のようなものをこちらでもつくれるようになる。

ただし、ここは今の静岡市が県都になるだけです。静岡県三島市、静岡県富士宮市、静岡県藤枝市、静岡県焼津市です。しかし今の静岡のこの中心は、何といったって元府中でしょう。奈良時代に国府が置かれた中心ですよ。そしてここは府中と言われ、東海道五十三次、今五十七次というそうですけれども、二十二次あって、その中でここの名前は何でしょうか。ここはもちろん興津、江尻ときまして、府中ときますね、それから丸子に行きます。府中、国府の中心なわけですね。家康さんがここに駿府城を建てられて、この駿府というところは江戸を抜く人口と、いわば三都、江戸と大坂と京都に匹敵ないしそれ以上の中心性を持っていたと思うんです。

今の静岡県の中心の中の中心ですよ。かつては国の中心がこの中心だったということです。ここのところは本当に大事なので、ここはまず住民自治の力を伸ばす。そのためには特別区という制度が活用できる。この活用できるところは、政令市と道府県庁が一緒のところですから、したがってこれは 15、実は 200 万になるところは、あとは川崎市も堺市も入るんですよ。そこも隣接地域を合わせると 200 万人を超えるんですね。したがって、そこも特別区ができる、望めばですよ。そうすると 20 の大都市のうち 17 ができるようになる。現在のこの法律ですと 10 しかできません。だけどうちも入れるようになるし、札幌でも、北海道都札幌、宮城県都仙台、こういうふうにできるというそういう選択肢が与えられました。

そして、県都になるということは、他の地域とのバランスも考えなきゃいけないということで、静岡県というのは、実に多様性に満ちた地域です。伊豆半島は世界ジオパークに、東部の富士山は世界文化遺産になりましたし、西部は浜名湖です。そういうことで、通常東・中・西というふうにいいますけれども、もう少し細かく区切ると大体５つの地域に分けられる。

この上の青い方の図は平成 15 年ですから、もう 12 年も前にこういう広域連合をつくりましょうということで、県議会でお決めになられまして、そしてこれを総務省の方に、こ

こに国の権限財源を全部寄越してくれと。政令市だけじゃなくて政令県にしてくれということで、石川知事は計６回、私は７回、８回、門前払いをくらったんですけれども、こういう５つの地域割りというのは、もう 10 年以上前からあるわけです。

今それを生かした形で伊豆半島に、私の権限の大半を持っている人を副知事に任命しまして、君は神奈川県の副知事のつもりで仕事をしてくれと。

神奈川県は首都圏の静岡県からすると入り口でしょう、ほとんど８割ぐらいの人が実は首都圏から来られているわけです、お客様が。湯河原は神奈川県で熱海は静岡県、そんなことはお客さんにとって関係ないですね。箱根、あれ静岡ですか、神奈川ですか、そんなことお客様にとって関係ないです。ですから、そういうところを一体になってやるようにして、神奈川県の知事さんを横浜市から誘い出して、箱根なり、小田原なり、あるいは大仁なり、そういうところで一緒にやってくださいと。それはこの伊豆半島の特徴です。

それから富士山のところは、何しろ西側には甲府盆地があります。そこの人たちと環富士で一体ですから、そこと一体でやりましょう。それから静岡市につきましては葵区の北の方、これは南アルプスのふもとでしょう。南アルプスの入り口です。静岡の葵区、それから川根本町、そこは環南アルプスなんです。南アルプスがエコパークになりました。エコパークの連携を静岡市と早川町、あるいは韮崎市、北杜市、南アルプス市ですか、あるいは長野県の飯田市だとか大鹿村だとか富士見町だとか、全部で 10 市町ありますよ。そこは環南アルプス山岳地ですけど、これは清水にとって直接関係ありますか。直接には関係ないでしょう、関心としてはですね。これは環南アルプスなんですよ。

そういうような形で県都の葵区の方はできるし、清水は海に開かれた玄関口ですから、そしてさらに西に行きますれば志太榛原中東遠のところは空港駅に５年以内ができます。そして新幹線駅ができると、もう西に行くのも東に行くのも、それからまたそこから空から来るのも帰るのも、そういう新しい空港ティーガーデンシティというのができるわけです。これはやっぱりここのティーガーデンシティ牧之原は、何しろ世界農業遺産ですから、牧之原、菊川、それから島田、川根本町、これは１市５町ですね。あそこは世界農業遺産の額縁にある空の玄関口になるわけです。

一方、浜松は三遠南信とお聞きになったことがあるでしょうか。三遠というのは三河の三です、遠というのは遠州の遠ですね。南信、南信州、飯田のことを指します。ここが今一緒になろうということで運動されているわけです。大体 250 万ぐらいになります。そして愛知県の知事さんは東三河に８の市町があります。豊橋とか豊川、そういうところに僕

が伊豆半島担当の副知事を任命したように、東三河担当のそこに在住するそういう副知事を設けられていて、君は浜松と一緒にやれということになっているわけです。

そういう５つの地域の個性を生かしながら、ここは何といってもふじのくに静岡県の顔で、奈良以来国府が置かれた府中です。家康公がここを中心となされたところです。顔づくりをしなくちゃいかんということでございまして、その顔づくりには、まずは人の力をしっかり固める必要がある。これは特別区でできるわけですね。しかも３つでしょう。大体３つ、それをさらに４つに分けますか。そうすると今全体で 70 万ぐらいしかいませんから、みんな 20 万以上です。こちらも人口減ってきましたね。

旧清水市、多いときは 24 万人だった。今 22 万 6,000 人ですね。蒲原町は多いときは１万 4,000 台、今は１万 2,000 台、旧由比町は１万人だったのが、今 9,000 人を割りました。こういう状態になっているんですが、人口が全体で減ってきて、しかし面積は広すぎる。広すぎるというと申しわけないけれども、とても広いということですから、やっぱりコンパクトにまとまるには今がチャンスだということで、この特別区の活用をすることを通して、基礎自治体の力を蓄える。そして広域的なことは県都として、県と市が一体でやっていくと。それは市長さんが県知事になられてもいいし、その逆もいいですね。１つになるということを通して効率を高めていけばいいと。

東京都と 23 区の関係がモデルになります。それをモデルにして大阪都と５つの先ほど言いました南区、北区、東区、中央区、湾岸区の仕事の分担は、もう既にそういう雛型みたいなものがあるわけですね。広域的なことは県がやる。今、市がなさっておられるのも市と県とどちらが能力があるか、広域的なことについてですよ。そうすると能力はやはり財源に裏打ちされることがありますが 2,800 億円、うちは１兆 3,000 億円未満というところであります。

ですから、大きなことをしようとすると大きなお金がかかります。しかし一方で、保育園だとか、学校だとか、あるいは福祉に関係することだとか、要するに日常生活に関わることは自分たちのまちづくりに特徴を持たせて、そこでお決めになる。そして広域的なことは市ではちょっと今無理なので県がやっていくという選択肢ができましたということなんですね。

10 年たって考えようということがあったでしょう。10 年たって、残念ながら 75 万からさらに 80 万どころか、第三次総合計画を見ますと 60 万台、場合によっては 50 万台ということまで書かれています。そうすると 70 万切ると、もうこういう常識で、70 万以上で特例

でなったけれども、今 100 万に戻っていると。その半分近くになって、政令指定都市でこんな大きなところで何もできないと言われたら、はい、そのとおりですと言ったんじゃ恥ずかしいですから、ですからともかく１回こういう選択肢をみんなで考えてみませんか。

皆さんの知恵をもらいたいんです。よくなったと言われるならそれでいいです。だけど、私の見るところ、本当によくなったかどうか、マイナスの意見もお聞きしていますので、多分恐らく皆さん方はこういう法律のことも、今まで御存じなかったんじゃないでしょうか。

この法律を１行、わずか 10 字ほどですけれども、書き足すだけがいわゆる法律の問題なんですよ。法律は国が決めますので、今、国会が開かれていませんので、国会が開かれると、そこに働きかけて、これを入れていただいて初めてこういう特別区を選択できるという選択肢を持つことができるということですね。この選択肢と、今政令市の市長さんが目指されているという特別自治市と、どちらが自分たちにとっていいのか。

今のまま中途半端に、例えば東静岡のところをどうするかというときに、これは県の所有地です、こちらは市の所有地ですと、だから一体的でやると使っている人は便利ですけれども、そこでなかなかに調整が難しいということがあります。

そうしたさまざまな二重的なものを洗ったものが、住民自治の強化により行政サービスの充実、私は自治は確実に特別区によりまして自治能力は上がると思います。自分たちで決めて自分たちの区議さんを選ぶのですから。

そして、メリット、その考え方は、人口 20 万、25 万人規模の特別区を設置すると。特別区長の選挙による選出、各特別区への議会の設置により、市民の声、地域の実情をより的確に反映したきめ細やかな新サービスの展開が期待できるということです。

つぎに、二重行政の解消による一元的行政経営ということなんですが、美術館、文化会館も複数ありますが、メリットの方を見ましょう。施設の一般的運営により、人材や収蔵品等の資源の有効活用を図り、企画力や利用者サービスの向上ができる。図書館も県立図書館と 12 の市立図書館を一体化すれば、ビジネス、地域、児童書等の分野に特化した分館の設置など、より特色ある図書館の構築が期待できます。

スポーツ施設、今、西ヶ谷に県立の水泳場と市の室内プールがありますが、これは駐車場も別ですし、料金も別ですから、これが一体になりますと利用者が申し込みを１カ所で行うことができるので、駐車場も全体調整で確保しやすくなりますし、利用者が選ぶことができます。

それから次は病院ですね、これも県市効率化ということがあります。

感染症が重要ですね。感染症対策は、政令指定都市の区域では市がやるんです。それ以外では県がやります。Ｃ型インフルエンザ、風疹など、住民の命、健康を脅かす感染症への対策を全区域で統一的にやらなければなりません。そのときに政令指定都市との調整が必要であるため、事業の実施がおくれる事例が発生しております。こうしたことをなくすことができます。

また学校はとても大切ですけれども、市内には２つの市立高校がありますけれども、教員の大部分は県で採用していますので、県の人事異動で配置すると。そうすると県立、市立の異動におきましては、任命権者が異なりますので、退職の手続きをとらなくちゃならないということがあるということでございます。

そうしたことで、最後は県都にふさわしい広域的な視点、先ほど言いました５つの視点、５つの地域づくりの中の県都としての顔をつくっていこうということで、成長戦略、産業政策、あるいはインフラ政策、景観、まちづくり、広域道路ネットワークといったようなものは、限られた資源を効率的に選択と集中でおろしていかなければなりません。

そういうことをやっぱり県市二元でなくて、県市一体化であった方がいいと。今までの選択肢は、実は特別自治市になる、私どもが出ていくということなんですが、これともう１つ新しい選択肢ができたということとして受けとめていただいて、それとまた県都静岡、今 35 市町、12 の町があります。23 の市があります。23 の市の１つ、政令市としては人口も、面積も、いろんな意味でマイナスの点が多いと、財政力も少ないということがありまして、市長さんも大変苦労されているということですね。

そういうことから背伸びをして特別自治市になろうと思っても、面積は横浜の３倍以上、予算は５分の１以下というところで、にっちもさっちもいかないような状況が続き、さらに 70 万を切るということで皆さん注目しているので、そうなった後ではなくて、なる前にいろいろ考えて、府中としてのトップとしての、また県都としての、そのプライドをしっかりとつくる。

しかもそれは法律を１行足すだけだ。しかもこれは政令市と県庁所在地とが同じである 15、プラス川崎と堺市、これは県庁所在地と政令市が一緒でないところは、20 の大都市の中で５つあるんです。川崎市、それから相模原市、それから浜松市、それから堺市、北九州市、この５つのうち近隣のものを合わせると 200 万以上になるのが川崎市ともう１つが堺市です。そうすると合計、その重なっているところとこの２つを足しますと、大都市の

うち 17 でこの選択肢がふえるので、したがって確実に人の役に立つと私は思っているんですね。

それでそれの先導的役割を静岡がやったらどうか。しかも放っておくと、何をやっているんだと言われかねませんし、県庁が所在しているんだからしっかりやれよといったところで、権限はないものですから、だったらもうどっちかがやった方がいい。ただし勝手にやってはいけないので、杉並区、あるいは葛飾区並みの個性を清水区と駿河区と葵区でつくっていけばいいというふうに思うわけですね。

これは提案です。これを考えましょう。これから 10 年後、静岡市の三次総合計画によると、確実に 60 万台の前半にまでいきます。そのときに何もしなかったというのでなくて、とりあえず考えて、一応こういう方向性を出してみるというような今節目のときに来ていると思うんですね。

市長さんが反発されたので、何となくそういうレベルで議論しているような方、市民、県民にとって、住民にとって何が一番いいかということを誰が考えるんですか。住民自身ですよ。そういうことで、今日は問題提起をしてみました。

これは広聴会ですから、本当は皆様方の意見を聞く会ということですので、できればいろんな意見を聞かせていただいて、そしていろんな意見が出て、全体の総意でやっていければいいと。私は清水区がその先陣を切れると思っているんですよ、やはり。そういうことで皆さんには期待しております。

【質問者１】

清水区の質問者１といいます。よろしくお願いします。

非常に知事の崇高な理念というのは、私ら行政の者でないから、二重行政の解消なんていうといいことですよね。知事さんの主張も、新聞読むと、いろんな行政機能の効率化で何百万、何千万のコストダウンだとかあるんだけど、庶民の、本当に一般庶民ね、素朴な感情は、13 年前の平成の大合併各地ありました。それによって本当によくなったのかなと思って。というのはね、もう社会保障費ですよね、それと住民税、こういうもので四苦八苦しちゃって、社会保障費も、住民税も、累進制度なのでね。本当に厳しい状況ですよ。まちの声を聞いても、私ら友達と話していても、まあどうしようもないと言ってね、あきらめ。

その県都構想だってね、実際に静岡県でなくて、静岡都になって静岡市はなくなって、私が住んでいる清水区は静岡都清水区とかんなるんだよね。とにかく何も実感としてね、

生活がよくなったということがないのにね、これからのマイナンバー制度や何や、効率化が進められると思うので、それは大変結構なことだと思うだけどね、これが最終的にね、その先にある姿、住民のあるべき姿、簡単に言えば減税ですよ、減税。

もう毎年毎年、社会保障費は上がっていってね、住民税だって、そういう中で減税のゲの字の一言言ってくれれば、静岡県の社会保障費にしても、人口流出がすごいでしょう、静岡市は。北海道の次だとかと聞いたよ。

それで市長が県都構想に向こう張ってね、市立大学をつくるだといってやっているだけど、市立大学なんてつくったって、これから少子高齢化で市立大学の経営が、私立大学の経営がどうなるかわからないのにね、そんなことぶち上げてね、知事もこの間テレビで10年先を前提にするのはナンセンスだって言ったけど、今日の新聞読んだら、知事の見解、僕もそう思いますよ、これ、非常に問題があると。費用対効果ということでしょうね。定員を確保すれば、青年が戻ると思うのは短絡的と批判した。一方で市議会で合意したことは有言実行しなければならないと指摘し、必ず実行すると宣言してほしい。田辺市長に強く構想の実現を、批判しておいて、頑張ってくれなんてエールを送って、これ小学校の生徒でも一体何を言いたいのということになっちゃうわけでしょう。それをまずお聞きしたい。

【川勝知事】

要するにですね、市立大学という公立大学をつくるというのは大変なことなんですよ。

それで例として言えば、私は公立大学、県立大学の学長をしていました。小さな大学です。浜松市にある２つの学部しかない。これは平成５年に県議会で表明をして、できたのが平成11年か12年です。それが公立大学になるのは平成22年です。だから県議会で表明をして、土地を確保し、学部を設定し、文科省の御認可を得て、総務省の御認可を得て、最初は私立大学だったんです、プライベートで、公設でうちが金を出す、500億円以上出したんです。しかも、今でも公立大学、こちらに県立大学があります、45 億円です。あちらの県立大学には15億円、60億円出している。研究室が要る、運動場が要る、図書館が要る、そして教室が要る、学生さんを集めなくちゃいけない。場所は選定しなくちゃいけない。そういうことを考えて言っているんですかと。そんな無茶なことを言っちゃいかんということが、だけどうそを言うようなことであれば、少なくとも１つぐらい言ったことは守れ。守れないなら言うなと、そういう話です。

【質問者２】

質問者２です。今日は知事さんがお見えになってお話を聞けるということで私は楽しみ

にしてまいりました。いろいろ知事さんのお話を聞いてごもっともというふうな部分もありますですが、私自身が静岡と清水の合併を進めたときには、これは静岡と清水の合併は、静岡と清水の合併で終わりじゃないと。静岡の 70 万というのは、仮に 70 万でもしていただけるということでお情けでやったんですね。

本当なら 80 万をクリアして、将来は 80 万じゃなくて 100 万が見えなきゃいけないというふうなことになって、この地域で一般的に自然増とか吸収でそれを目指していくのはなかなか大変だということもあるものですから、藤枝、焼津、島田等を含めて、中部で５市５町で将来一緒になって、本当に名実ともに政令市と言われるような市をつくろうというのが元々の目的だったと思います。

そういうふうなことで合併の成り立ちがあるんですね。ところが静岡市になりましてから、一切そういう努力をしませんでした。今もしていませんけど。だから知事さんに言われるようなことになっちゃうのは何かというと、そこはもう元々の努力が何もないんですよ。ですからもっとそういう意味での努力をする必要があったというふうに思いますし、あるというふうに思いますし、私どもは、私自身もそうですけれども、市がなくなっちゃう、名前もなくなっちゃう、自分の生まれ育った、それでも合併をする、一体何なんだというふうなことを将来の子供たちに言われたときに、こういうことがあるから合併したんだよ、こういうことができたから合併したんだ、それ見ろというふうに言いたいじゃないですか。そう思って合併協議をしましたし、新市の建設計画もつくりました。それから合併協定もいたしました。しかし、それが反故にされちゃっているんですよね。

それでは、今市民が喜んで合併してよかったって、今合併してよかったと言う人は余りいないんじゃないですかね、この清水の方では。それは非常に私は残念に思っていまして、何とかして、知事さんが問題提起をしてくれた。これ非常にありがたいと思います。ありがたいんですけど、静岡、清水に対する問題提起ということだけじゃなくて、もう少し中部圏をしっかり考えて、それでもちろん、向こうの人が何を言ったかというと、焼津、藤枝ももちろんありますよ。そのとき合併しようと言ったときには、おれらの方にその話をする前に、おまえっちは先に腹をくくってこいよと。仮に焼津と藤枝が静岡と合併してもだめですね。島田まで入ってもだめですね。おまえっちが腹をくくってこなければだめなんだと。だからもっと静岡、清水は腹をくくったら、おらのところへ来いという話だったんですよ。それで静岡、清水の合併協は進みました。合併をする方向にしました。これで政令都市を目指すということもありましたし、将来はもちろん 100 万とか、浜岡まで含め

れば 130 万ぐらいの圏域がありますから、そういうことも可能性としてはあったというふうに思います。

そういうことを全くやろうとする努力とか、問題提起とか何かをしないで、ずっと来て、自然体で来て今のような状態になっちゃっている。だから知事さんにそう言われちゃうようなことになっちゃう。これは当たり前だと思います。ですからある意味においては本当にそういった将来を見据えて、静岡、清水はもちろんですが、中部圏全体で将来の方向を見通せるような、そこに乗っていけるような、そういうことにしていただきたいというふうに思っております。

それから１つだけですが、清水の良さというのは、さっき知事さん言われたように、清水って何のまちだといったら港町ですよ。その港は県の管理ですね。そうするとまちはまち、港は港というわけにいきませんね。ですから、自分のところで自分のまち、港をちゃんとやるという考え方は当然あっていいわけですね。しかし旧の清水ではそんな力はない。したがって、静岡と合併し、政令市になって、そういう方向を目指して、県から港の管理を任せてもらってやるというふうな考え方も当然あっていいというふうに思って、そういう方向の検討もいたしました。

ですからそういうことも含めて考えていかないと、人口増やすと清水でいったって、清水の産業をどうするか何とかいったって、港の周辺に人が賑うとか、港が元気で、港の周辺の企業ががんがんやってくれるようにならなきゃ、この地域は発展しませんよ。そういう特性のある港町ですから、ぜひそういう意味で県知事さんに問題提起をしていただいたことを私は大変喜んでおりますが、どういう形でこれを検討して、どういうふうにもっていったらいいかということをもう少し突っ込んで相談しながらやってもらいたいと思います。

【川勝知事】

どうもありがとうございます。やはり今あと１年半で甲府とこの清水港を結ぶ中部横断自動車道が完成します。そうしますと、今甲府盆地、山梨県からコンテナの８割が東京湾に行っているわけです、横浜港とか東京港へ。こちらは２割です。しかしながら、距離はこちらの方が短い、２往復できますよ。直線で 70 ㎞ぐらいでしょう。２往復できるんです。ですから、こちらが８割になり、向こうが２割になるでしょう。言いかえますと物流が増える、言いかえると人流も増えると。ですからここでの問題は、後背地に山梨県とかさらにはその向こうに長野県をとらえているわけです。清水港なんですよ。

ですからそういうふうな発展は、まちはまちとして、そこに来ると東海道五十三次の一番のいいところを見られると。そしてまたクルーズ船が来ると。今も 5,000 人単位の人が来ているでしょう。今年は恐らく 14～５隻来る可能性がありますね。ですからこの観光としてやるときに、これは南アルプスとは直接関係がない。私はそういう意味で、この港町としての魅力をやっぱり区長先生はどう思われているんですかと。このまちづくりを一緒にやっていこうと。

東京都と東京 23 区の関係というのは、非常に役割が分担されていて、いわば安定しています。そういう関係をやっていくには、特別区にできればその選択肢がふえると。今 10 年間何もやってこなかったというのは、できる力がなかったのかもしれませんね。

ですからやはりこの 10 年間の歩みを先ほど問題があったように、あなたが言われたように、平成の合併が本当によかったのかどうかということも今問われていると思います。ですから、それぞれの地域の個性を生かしながら、広域の連携をつくっていくというそうしたことを今進めているわけですから、５つの地域、例えば賀茂地域なんていうのは、１市５町もありますよ。しかし災害が起こったらどうします？一緒にやらなくちゃいけない。

それを一緒にやるための防災訓練をしましたけれども、賀茂地域の南伊豆、西伊豆、松崎町、それから東伊豆、それから下田ですね、ここを一緒に防災訓練するのすら大変でしたよ。だからそこはもう個性があるけれども、広域的な連携をつくっていく必要があるということで、今、副知事に下田にいてもらっているわけですが、そのような広域的な連携をするのに一番ふさわしいのは、もちろん市同士が組み合うということもありますけれども、私どもはそういう広域の仕事は我々の仕事ですから、ですから市民生活の一番近いところまでいきなりおりてくると。

はっきり言うと、県の力を市町に全部溶け込ませると、そういう覚悟です。

そのかわり、県のすべての能力、これは権限・財源・人材ですけれども、これをここで広域でやっていくことでおろしてくると。あるいはここの県都は何といったって静岡の顔であり、富士山というのは日本の国土の統合のシンボルです。「ふじのくに」というのを名乗れるのはうちと山梨県だけです。その「ふじのくに」の都ですから、だからここはちゃんとしたい。

【質問者３】

清水区の質問者３といいますが、私の方の質問はコンビナートの問題なんです。東北の大震災で全国、特に東日本でコンビナートが大きな事故を幾つも起こしているんですよ。

具体的には、気仙沼で重油タンクが流れて、これ漁船の燃料ですけれども、それが波に乗って市街地まで流れ込んで大火災になって、３日以上燃え続けた。仙台では、日鉱日石石油のＬＰＧの給油施設が火がついて、消火活動に取り組むまで３日間取り組めなかった。あるいは千葉の市原市、コスモ石油ですけれども、10 日間ＬＰＧのタンクが燃え続けた。こういうコンビナートの危険な状態があの 3.11 の大震災で非常にクローズアップされました。それらの災害を起こした地域を全部含めたものが、この清水のコンビナートにあるんですね。

コンビナート地区には、それ以外の施設にはメタノールだとか、アルコールだとか、もっとあるいはガソリンが大量に保管されています。この地区の防災対策を緊急に立てないと、もし地震が来たときに、この清水区はものすごい壊滅状態になります。気仙沼は２キロ・４キロ四方の約８平方キロメートルの市街地が丸焼けになっちゃったんですね。この問題はコンビナート特別区の防災は県の仕事ですから、この問題について、非常に私は認識が甘いんじゃないかと思っています。このことを緊急対策とっていただきたいんですが、県知事の考えをお聞きしたいと思います。

【質問者４】

特別区の件のお話なんですが、知事さん、先ほど改正案ですね、案を前提としてお話ししていたような気がするんですよ。平成の大合併というのは、法令的なバックボーンがあって、住民発議制度で静岡、清水を合併していく。それに対して、その前提としては、行政コストの削減ということを大前提として静岡、清水の合併というのが行われたというような気がします。

ところが今度、まず改正案、案の段階で、尚且つ、区長を公選し、区議会を設立するというと、行政コストの肥大を前提としてお話ししているような気がするんです。本当にそんなのでいいのか。人口が少なくなるのに行政コストがかさむということは、住民にとっては負担が増えていくことじゃないかなというような前提があると考えます。尚且つ、これを県知事さんが言うということがすごく不思議で、もしこれが案がとれて、きちんと法令として、前提としてきちんとそれが担保される状態であるならば、執行権限者である市長さんが本来言うべき問題じゃないかなというような気がします。

ですから、もし県知事さんがそういうお気持ちで一生懸命進めたいということであるならば、あと４年後に静岡市長選がありますので、ぜひ県知事さんやめられて、市長選の方に立候補いただいて、この案がとれたことを市民に直接投げかけて、市民の選択を仰ぐと

いうのが本来の常道じゃないかなというような気がするんですが、いかがでしょうか。

【川勝知事】

どうも御質問ありがとうございました。まずコンビナートの件ですが、危機管理は最優先であります。今のこの現状につきまして、私ども最善を尽くしております。この津波の問題は、ただに清水だけの問題ではなくて、焼津におきましても、あるいは沼津におきましても同じです。ですからこれは静岡型津波対策ということで、市町の、そこに住んでいらっしゃる住民の方々との合意を得たものを前提にして、対策を講じているというのがございまして、そうしたものがうまくいっているところと、やや遅れているところがあるというのは御承知ください。

ですからどうしたらいいかということで、基本的に津波を防ぐ、あるいは防災、減災をきっちりするということでやってきておりまして、この 4,200～4,300 億円かかるんですけれども、そのうちの３分の１は既に費やしております。もちろんコンビナートはここ１，２年でできたものではありませんので、平成どころか昭和の 44 年ぐらいから２兆数千億円をかけて津波対策、地震対策を講じてきているので、差し当たって日本の中で最も防災、減災に対して施設的にできているのが、日本の中では静岡県であるというふうに思っております。

それから法令というのはですね、何といいますか、大阪都構想の大阪都の構想ができてから、法律ができてからしたんじゃありませんね。ですからこれは誰かが発議しなくちゃいかんということでございまして、今、主権者はだれですか。皆さんです。ですから皆さん、こういうふうな案が１行入りますれば特別区ができますよと、どうですかということなんですね。

市長さんは自分の例えばポジションがなくなったら困るというふうな観点で言われているかもしれないし、市議の皆さんもそうかもしれない。しかしながら、主人公は市民です。住民です。だから皆様方に初めて投げかけた、どうですかと。こうしますと言っているんじゃありません。こういう案を皆さん方考えてみてください、どうですかと。こういう話なんですよ。

ですから、市長さんがどう言っているかということにもまして、主権在民で、かつ、皆様方の福祉を上げるために国会議員も政治家も自治体の政治家も仕事をしているわけですね。すべてのことは「万機公論に決すべし」というふうに「五箇条の御誓文」の第一条にございます。広く会議を起こし、万機、すべての事柄は公論、公の議論で決めなさいとい

うことなんです。

その公の議論のきっかけについてだれが起こすのでしょう。皆様方はそれぞれ仕事で忙しいですよ。皆さん方の福祉を考えるのが我々の仕事です。その我々が自分で勝手に決めないで、どうですか、こういう案がありますよということでありますので、ぜひお考えいただいて、さあ、誰が、What is、住民だということで、皆様方はやりたくないというならそれで終わりですよ。

これはですね、今日持って帰っていただきまして、これから今日は清水区だけでも 20 万人以上いらっしゃいますね。しかしその 200 人余りの人しかお越しになっていらっしゃいません。多くの人が来ていただいて、だれにとっても一旦考えてみるという時期が必要ですね。10 年たったこの合併が本当によかったのかどうかも含めて、お考え賜りたいというふうに存じます。